



後半は各地での調査・研究の報告。①ニコライ・ヨンセン（ロンドン大学）「欧米の視点から考える植民地支配の過去清算—「歴史戦」と「日韓対立」という枠組みを問い直す」、②韓恵仁（アジアの平和と歴史研究所）「朝鮮人遺骨調査の現状と課題」、③矢野秀喜（強制動員問題解決をめざす過去清算共同行動）「強制動員問題の現在地と私たちの課題」、④井上洋子（長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会）「長生炭鉱遺骨収容プロジェクト」（ビデオ報告）、⑤室田元美（ルポライター）「笹の墓標強制労働博物館の開館とその後」。いずれも充実した報告だった。司会は、庵谿由香さん、飛田は閉会のあいさつを行った。

青森市内中心部での懇親会も盛り上がった。



24日は、大湊フィールドワーク。午前10時半、下北駅集合。そこからチャーターバスで出発した。20数名。案内は竹内康人さんと下北の会の村上準一さん。

まず、大間鉄道工事関係。大間は下北半島の北の端、かの大間マグロの大間だ。アジア・太平洋戦争の時期に軍用鉄道として工事が進められたが、完成しなかった。



「下風呂温泉郷」駅？／「幻の大間鉄道」



大湊自衛隊／この電柱が1945年当時の突堤の先

案内の竹内康人によると、以下のとおり。

風間浦村の下風呂には鉄道用橋梁が残っている。現在では手すりが付けられ、再塗装され、駅舎も作られ、足湯が置かれるなど観光の場となってい

るが、ここは瀬崎組が請け負った朝鮮人の強制労働の現場である。

大湊一帯は、戦時中、海軍大湊警備府が置かれ、潜水艦隊、航空隊、海兵団、防備隊、工作部、施設部などさまざまな部隊が置かれた。現在も自衛隊の部隊の拠点である。土建業者と大湊警備府との関係については飛内進『太平洋戦争下の大湊警備府』に詳しいとのこと。

その後、常楽寺に行った。海軍の戦没者の追悼碑があった。8月9日の空襲での軍艦攻撃による死者の名が記された碑もあったが、この日の空襲で死亡した朝鮮人軍属の名は記されてはいない。充実のフィールドワークだった。

フィールドワークののち、下北に泊まる人もあった。私は青森にもどった。けっこう乗りでがかったが、鉄道の旅がいいのだ。

青森ではまた東横イン青森駅前店。昨年、念願の八甲田山春スキーにきたとき、このホテルがとれなかった。まあいいだろうと「新青森店」といった。青森・新青森は近いが、電車が少なく不便なのだ。今回は、ちゃんと駅前店に4泊した。



翌25日。今度は、北海道だ。名寄の友人を訪ねるのだ。元センター六甲奨学基金運営委員長の中畠孝幸さん、そして道北クリスチャンセンターの日向恭司さん。青森からついでに訪ねるには距離がある。おふたりにもそう言われたが、行きたいときに行かねばならない。

青森から名寄まで一日で行けることがわかった。朝7時半出発、夕方4時到着。はやて、北斗、カムイ特急を乗り継いだ。

北海道は、ひろい。だいぶ前、札幌から旭川の友人に今から旭川に行くので今晚飲みましょう、と夕方電話した。彼いわく。無理です。調べてみたらそうだった。遠いのだ。名寄は、その旭川から更に北にある。

中畠さんと飲み、その後、道北センターにもどり日向さんと飲んだ。DIYのウッドデッキがすてきだ。道北センターは宿泊もできていい。1985年に、NCC-URM「農業セミナー」をここで開いた。その時は、上士別町の五十嵐農場で民泊



もさせてもらった。それからずっと、農場の会員になり「宅配野菜」をもらっている。五十嵐紀子さんには、2021年、広島「共生庵」(荒川純太郎さん)でのセミナーには ZOOM で登場していただいた。(報告集があります。)

朝、付近を散歩した。名寄神社、同公園があった。神戸より涼しい。



道北センター／右から日向さん、中畠さん、飛田

ここまできたら、朱鞠内に行かなくては。そこに「笹の墓標強制労働博物館」がある。北海道ワークショップは 1998 年からスタートしたすてきなプログラムだ。札幌の殿平善彦さんが代表。韓国側では、鄭炳浩さん。鄭炳浩さんは、1988 年にむくげの会ゲストディにきていただいた。テーマは「在米韓国人の問題」。ちょうど、甲南大学イリノイセンターにイリノイ大学から派遣されたのだ。社会学者で日本語でも、『人類学者がのぞいた北朝鮮－苦難と微笑の国』(青土社)、『劇場国家』北朝鮮－カリスマ権力はいかに世襲されたのか』(共著、法政大学出版局)の著書がある。ゲストディのとき、欧米系の留学生のホームステイ先はすぐ決まるのに、アジア系留学生が決まらないと言った。韓国語で鉄砲玉のように時間いっぱい講演してくれた。朱鞠内ワークショップのゲストに李泳禧さんが来られたことがある。帰路、大阪に鄭炳浩さんと来られて再会した。一昨年ソウルお会いして『人類学者が……』をいただいた。体調はすぐれないと聞いていた。昨年 12 月 8 日に亡くなられた。本当に残念だ。

ネットでは、以下のように紹介されている。

「なぜかれらは苦しみの中でも微笑むのか。北朝鮮理解の最良の書。／マスゲーム、時代錯誤なスローガン、将軍さまへの思慕……。北朝鮮は一見、不可解な国だ。しかし、彼らの行動にはわけがあ

る。90 年代後半から北朝鮮や中国でフィールドワークをおこない、NGO のスタッフとしても人道支援に関わる韓国の文化人類学者が、北朝鮮に生きる人々の心性、統治の背景にある価値観を豊富なエピソードと、分析をもとに描き出す。」

朱鞠内博物館には、中畠さんに車で連れて行ってもらった。翌日からワークショップがある忙しいときだが、矢嶋館長が、博物館と遺骨発掘現場などを案内してくれた。朱鞠内湖は、日本最大の人造湖だという。たしかに大きい。



殿平善彦さん／鄭炳浩さん／朱鞠内ダム堰堤



名寄からその夕方、旭川に移動。ここでまた東横インに泊まった。旭川での思い出は、2012 年連れ合いといった「東北海道弾丸ツアー」。3泊4日で、知床、網走、摩周湖、旭川、札幌をまわった。有名な旭山動物園にもいった。動物園好きの私はバスの時間ギリギリまでウロウロした。と、オオカミ山から「遠ぼえ」が聞こえた。まさに遠ぼえだ。引き返した。オオカミ島のとっぺんでバスが月に向かってほえている。背筋がゾクゾクとした。閉園までうろついていてよかった。バスにもどったら、みなに白い目でみられた。

翌 27 日、旭川空港から伊丹空港にもどった。最近、飛行機の予約にミスが多い私だが今回は OK だった。実は、今回、名寄以外に「友をたずねて北海道」をする計画をたてていた。会いたい人がいるのだ。が、28~29 日、関西セミナーハウスでエキュメニカル・ネットワーク協議会があった。私の担当は夜の懇親会の司会だけだったのだが、やはり参加することにした。

こんどこそ、「友をたずねて北海道」を完成したいと思っている。

(右、旭川、貸し切りで入れなかったビール館)

